

10. 5 つどう1血縁アンケート抄—Q. 我が家の家族イベント—

Twitter（現X）&Facebook「とある民俗学講師（の補足メモ）」

* 家族イベント：仕事と暮らし、年中行事、人生儀礼、外食、旅行、エンタメ（ゲーム、テレビ、映画…）

【稲作】毎年、祖母の家(和歌山県橋本市)で、祖母、母方叔父、私の家族で稲作を行っている。5～6 月にかけて、田おこしや草刈りで男手が動員される。7～9 月は、田んぼの水管理が中心となるため、総動員しなくても大丈夫だが、祖母だけでは心配なので、月 2 回ほど集まる。収穫の時期になると家族総動員で、収穫を行い、お寿司 or 焼肉を食べに行く。

【食事】毎週日曜の晩御飯はできる限り家族で集まって食べている。実家は東京都杉並区にあり、家族構成は父、母、兄、私の四人家族。私が京都で一人暮らしをしている今は、LINEのビデオ通話をつないで参加している。1 週間の近況報告やその日の晩御飯、テレビに流れてくるニュースなどの話をいつもしている。家族それぞれ忙しく、生活スタイルも異なるため、日曜の晩御飯は家族 4 人が全員そろってゆっくり話をする大切な時間である。

【餅つき】私の家族が集まるのは、毎年大晦日に祖母宅(祖父は他界)で餅つきをする時だ。私の家族は両親、私、そして弟と妹の 3 人きょうだいである。母の実家は鹿児島県霧島市にある古民家だ。祖母や 2 人のいとこたち、叔父や伯母を含めた家族総出で、杵と臼を使って餅をついては手作業で成形していく。大量の餅を作りながら、家族みんなで賑やかにおしゃべりする時間が好きだ。1 年で唯一食べられるつきたての餅は何よりおいしい。

【正月】私が中学生の頃までは、祖父が氏子をしていた大阪府にある神社で、毎年 1 月 2 日、父方の親族全員で御祈禱を受けていました。私の家では普段親族が集まることは無かったので、親族のほぼ全員と顔を合わせるのは年に 1 回、この時ぐらい。寒い中ずっと御祈禱を受けるのは小さな子どもたちには難しいので、大人が御祈禱を受けている間、子どもは隣の部屋や建物の外で、ゲームをしたり鬼ごっこをしたりして遊んでいました。このイベントも、新型コロナのため数年見送られ、その間に祖母が入院したこともあって自然消滅しました。もう復活することも無いと思います。実際に集まりがあった時は面倒くさいと思っていたのですが、無くなってしまうとなんだか据わりが悪いように思ってしまう。

【春節】中国では、新年（春節）が近づくと、裕福であろうとなかろうと、中国人の心にはただ一つの思いしかありません。「家に帰る」ということです。私の家族も多くの中国家庭と同じく、最年長者である祖父の家に集まる伝統を大切に守っています。ただし、海外在住の私は「オンライン帰省」。画面越しとはいえ、一緒に餃子を包んだり、年越しを祝ったりできることは、離れていても家族の絆を感じられる貴重な瞬間です。

【墓参】家族イベントとして定例化しているものは、年 4 回（春秋の彼岸・盆・正月）の墓参り。父はイエの長男であるため、(父の) 弟家族より先に墓地に入り掃除を行い参る。盆になると先祖迎え・先祖送りの行事があるが、我々は先祖迎えを担当し、弟家族は先祖送りを担当する。先祖迎えは、墓掃除して住職に読経してもらった夕方に墓地で長尺線香をたきはじめ、その煙が先祖の道しるべとなるよう無言で仏壇まで焚き続ける行事である。この迎え行事は長男の役目であり、息子である私は母と共に道中無言で歩く。無言の理由は「人が話すと、その声で先祖が道に迷うから」だそうだ。

【葬儀】私の家は、両親、兄、兄、私、弟、妹の七人家族。一度に集まることはなかなかありません。というのも、山形市の実家に父母弟妹が住んでいるのですが、1 番上の兄は東京、2 番目の兄はアメリカのアイオワ州、私は京都に住んでいるため、帰省が非常に難しいからです。特にサッカー選手になるためアメリカの大学に進学した 2 番目の兄は、2 年に一回ほどしか日本に帰って来ません。しかし、今年祖母が亡くなった時には全員が揃いました。私と 1 番上の兄はその日のうちに帰りましたが、2 番目の兄は飛行機 3 つを乗り継いで 20 時間かかったそうです。

【法事】死んだ曾祖母の節目の年には、曾祖母の眠る太宗寺（新宿区）に集まる。生前には曾祖母の誕生日に集まることが多く、親族の要であった。先日の七回忌では親族40人が会し、お坊さんの読経の後、お墓参り、食事会をした。

【喜寿】私の母方の親族は、祖父母の還暦や古稀などの長寿祝いの際によく集まる。最近では、2週間前の日曜日、祖父母の喜寿を祝うため、普段は西宮に住んでいる叔母一家3人、大阪に住んでいる叔母一家5人、そして兵庫県の市川町に住んでいる私の家族3人と、京都から私が駆け付け、親族計14人が兵庫県夢前町の温泉旅館で宴席を囲んだ。祖父は78歳、祖母は76歳、その間を取って77歳の喜寿をまとめて祝うことになった。斬新で効率的だと感じた。

【誕生日】私の家族は札幌に住む6人家族（両親と4人兄弟〔私・妹・弟2人〕）。私は高校時代には塾に通い詰め、父は病院で夜勤専従、母は父と同じ病院で平日フルタイム勤務、妹は中学校、弟2人は保育園にそれぞれ通っており、6人全員が集うことは滅多になかった。しかし、誰かの誕生日が近づくと、皆で都合を合わせて家族全員で誕生日を祝っていた。ケーキや誕生日を迎えた人の好物を家族全員で食べながら、一家団欒を楽しむ貴重な時間であった。

【焼肉】私の家では、家族全員が揃っていなければ焼肉をしないというルールがある。誕生日、合格発表など、いかなるおめでたい日であっても父、母、私のいずれかが欠けていれば焼肉を口にすることはできない。両親に理由を聞いても「そういうものだ」と返される。地元香川県が焼肉のこだわりが強いわけでもなく、身内に焼肉関係者がいるわけではなく、不思議である。なお、この取り決めは友人との食事や少し離れた祖父母の家に行った時には適応されない。それでも私が京都に下宿している今、家族三人が揃うのは貴重であり、春の帰省では十日間で2度焼肉を食べることとなった。

【家族麻雀】我が家には、偶数週の金曜日の夜に家族で麻雀をします。最初は祖母と母の趣味だったのですが、今では父や姉も巻き込んで、週末のちょっとしたイベントになりました。点棒を使って真剣に勝負しながらも（お金は賭けません）、一緒に夜食を食べたり、昔話に花が咲いたり、笑いの絶えない時間です。特に私がリーチをかけるときは、みんなが「ほんまにいいねんな」とニヤニヤしながら母が反応してくるのが恒例で、和やかな雰囲気包まれます。勝敗にこだわりすぎず、家族で同じテーブルを囲んで過ごすこの時間は、忙しい日々の中でホッとできる貴重なひとときです。

【家族旅行】我が家の家族イベントは「旅行」である。我が家の場合は、最初から全員集まろうと企画していなくても、最終的に現地で全員集合することになる。現在、父がミャンマー、母が東京、姉（社会人）が静岡、私が京都と、それぞれの場所で一人暮らしを謳歌している状態だが、それでも、もともと旅行好きの父が誰か1人と旅行に行く予定を立てると、必ずと言っていいほど、みんな予定を合わせて集まろうとする。つい先週末も、当初、父と私で比叡山に行く予定だったものが、全員京都に集合して家族旅行となった。姉はフットワークが軽く、今年の4月に父に会いに行こうと企画したら、「自分はその前に中国旅行に行くから、お前は1人でタイまで来て、そこで落ち合っ一緒にミャンマーに飛ぶのはどうか」などと計画を立てて実行した。私と母は出不精であるが、それでも誰かがどこかに旅行するとなると自分も参加しようとする。今や皆がバラバラに暮らしている我が家にとって、「旅行」は全員が集まる貴重な家族イベントなのである。

【習い事】家族が集まるイベントは、幼少期から続けているバレエの発表会だ。年末年始や誕生日などに集まることがほとんどない家庭だが、なぜか年に1回あるバレエの発表会には出演者の私と妹、役員で裏方仕事をしている母、そして父が集まる。発表会は観に行くという習慣が我が家の暗黙のルールになっているように感じる。また、バレエの教室は家族ぐるみの付き合いが多いため、「発表会＝家族が集まる機会」に無意識的になっているのかもしれない。

【スマホ等】両親と男二人の核家族である我が家は、1月1日には祖父母の家にもいかないで一家団欒の時を過ごす。父は単身赴任、兄は東京に進学しており家に帰ってくるときはバラバラだが、正月までには必ず全員集まる。正月は一家で何もしないために集まるようなものである。小学生の頃は面白くない正月特番を見ながら暇を持て余していたが、父の単身赴任や兄の進学で一家が集まる機会が少なくなると、何もしなくても家族で集まってゆっくりと時間を過ごすだけで十分幸せだという気持ちになれることに気づいた。今はみんなスマホにくぎ付けで少し寂しい。